

カリキュラム区分		4カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	234	2年	後期	看護学科	必修	地域アセスメント Community Assesment	30	1
担当教員								
田中 美延里	入野 了士	奥田 美恵	長尾 奈美	瀬戸 裕一	河野 瑠奈			
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
○	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
○	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
地域アセスメントの基本的な考え方と方法、および地域のグループ・組織を含む社会資源の活用・創出について学ぶ。								
到達目標（授業目標）								
1. 地域看護活動の展開における地域アセスメントの意義とその方法を説明できる。								
2. 活動事例を通して、地域のグループ・組織の機能を理解し、生活と健康に関する社会資源の活用と創出の必要性を説明できる。								
授業計画（項目・内容と方法・担当者）								
1回	地域アセスメントの目的と展開過程：地域アセスメントの枠組み、展開過程（田中美延里）							
2回	エスノグラフィーと地域看護：看護における文化への注目、エスノグラフィーの地域アセスメントへの活用（田中美延里）							
3回	生活と健康に関する社会資源(1)：グループ・組織の種類と機能（長尾奈美）							

4回	地域アセスメントに基づく看護活動(1)：実習地の活動事例紹介 ※3年次後期地域看護学実習（チームプレゼンテーション）と合同授業（田中美延里、担当者全員）						
5回	地域アセスメントに活用できるモデル：Community as Partner Model（田中美延里）						
6回	地区踏査の方法：地区視診・参与観察（田中美延里）						
7回	地区踏査の方法：インタビュー（田中美延里）						
8回	既存資料と社会調査の活用：既存資料の種類、社会調査の意義と身近な例（田中美延里）						
9回	地域アセスメントに基づく看護活動(2)：ルーラルエリアにおける看護活動（教育協力者）						
10回	地区踏査の計画立案（演習）：地区踏査（個人ワーク）の計画検討（田中美延里、担当者全員）						
11回	地区踏査グループ報告会（演習）：地区踏査（個人ワーク）の発表（奥田美恵、田中美延里、瀬戸裕一、河野瑠奈）						
12回	地区踏査全体報告会（演習）：グループ推薦作の発表(1)（奥田美恵、担当者全員）						
13回	地区踏査全体報告会（演習）：グループ推薦作の発表(2)（奥田美恵、担当者全員）						
14回	生活と健康に関する社会資源(2)：地域資源を活かしたまちづくり（教育協力者）						
15回	まとめ：講義演習の要点整理（田中美延里）						
16回							
17回							
18回							
19回							
20回							
21回							
22回							
23回							
24回							
25回							
26回							
27回							
28回							
29回							
30回							
成績評価方法及び基準							
レポート85%、グループ学習への参加態度15%。トータル60点以上を合格とする。							
教科書	荒賀直子・後閑容子・鳩野洋子・神庭純子「公衆衛生看護学.jp 第5版データ更新版」（インターメディカル）						
参考図書等	エリザベスT.アンダーソン・ジュディス・マクファーレイン、金川克子・早川和生「コミュニティ アズ パートナー 地域看護学の理論と実際 第2版」（医学書院） 佐伯和子「地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 第2版」（医歯薬出版）						
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）							
授業内容を生活体験と関連付けてふりかえることを重視する。 計画的に課題レポートに取り組む必要がある。							
関連科目							
前科目	231 地域看護学概論						
後科目	235 地域看護方法論	235 地域看護方法論	236 地域看護学実習				
実務家教員							
保健師（行政機関）	田中 美延里	入野 了士	奥田 美恵	瀬戸 裕一	河野 瑠奈		
保健師（職域保健）	長尾 奈美						

備考	健康教育論（同時期開講）、在宅・公衆衛生看護学の科目群と関連している。 地区踏査に掛かる交通費は自己負担とする。
----	---